

○高輪築堤とは

高輪築堤は、明治5年（1872年）に我が国初の鉄道が開業した際に、海上に線路を敷設するために築かれた鉄道構造物です。明治政府は、明治2年（1869年）に、首都東京と開港場であった横浜を結ぶ約29kmの鉄道建設を決定しました。しかし一説によると、高輪周辺の土地は国防上必要であるとの理由で兵部省が鉄道当局への引き渡しを拒んだため、本芝から高輪海岸を経て品川停車場に至るまでの約2.7kmの区間は海上に築堤を建造し、その築堤の上に列車を走らせることとしました。

工事はイギリス人技師エドモンド・モレルの指導のもとで民部省鉄道掛（のちに工部省鉄道寮）が担当し、石垣の石材には台場や高輪海岸の石垣等が使用されています。一度埋め立てた土砂が波に流されて築堤が崩壊するなど難工事となり、完成したのは正式開業直前の明治5年（1872年）9月のことでした。今回発見された第7橋梁を含む第5～第8の4つの橋梁は、この地域の住民が漁業や商売品輸送のための舟を出入りさせられるように設置されたものです。

高輪築堤は、我が国の在来技術と西洋技術の折衷をみることのできる貴重な鉄道構造物といえます。



三代歌川広重「東京品川海辺蒸気車鉄道之真景」明治5～6年（1872～73年）頃

○高輪海岸の歴史

現在の第一京浜国道は、江戸時代、東海道として知られており海岸線を通る主要幹線道でした。特に泉岳寺周辺には、東禅寺・泉岳寺だけでなく、三田の寺町としても知られるほど、寺社が多く集積する地域でした。「高輪ゲートウェイ」の駅名の由来にもなった「高輪大木戸跡」は、江戸の玄関口として設置された木戸を支える石造構造物です。この大木戸跡が残されていることから、この地域が江戸の周縁部であったことが分かります。

この地域は、赤穂浪士で有名な泉岳寺、幕末に黒船を迎撃するために建設された台場、そして今回出土した高輪築堤を走る鉄道など、江戸から明治初頭にかけて、多くの名所がある地域として錦絵などにも残されています。

○高輪築堤と海面埋立の歴史

明治2年（1869年）11月	新橋～横浜間の鉄道建設決定
明治3年（1870年）10月	高輪築堤工事着手
明治5年（1872年）5月	品川～横浜（現 桜木町）間仮開業
9月	高輪築堤完成
10月	新橋～横浜（現 桜木町）間正式開業
明治9年（1876年）12月	新橋～品川間複線化
明治32年（1899年）12月	新橋～品川間3線化（築堤拡幅）
大正3年（1914年）	品川車両基地部埋立工事完了



『芝区誌』挿絵より
明治40年（1907年）頃の高輪築堤



勝川春扇「浮絵 高輪之図」文化3～文政2年（1806～1819年）



内務省地理局「実測東京全図」明治11年（1878年）（部分）に加筆



江戸時代の海岸線



明治5年（1872年）鉄道開業時



昭和戦前期

○国指定史跡「旧新橋停車場跡」へ追加指定

高輪築堤跡の一部は「旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡」として国の史跡に指定されました。指定範囲は延長約120メートルの築堤部分です。中でも、第7橋梁の橋台部分は各段に長さの異なる石を交互に積み上げるブラフ積みを採用されており、石垣表面の仕上げの差から山側は3線化の際に拡幅された経過が分かる貴重な遺構です。

この他に、信号機跡を含む約30メートルは史跡範囲には含まれないものの、同開発敷地内に移築される予定です。



史跡となる第7橋梁の橋台部分(国指定史跡)

発掘調査の経過

昨年4月から継続されている高輪築堤跡の発掘調査により、これまでに多くの成果が蓄積されてきました。

特に、築堤部分を垂直に裁ち割り、内部構造を観察したところ、築堤構築の方法や手順、用いられた素材、伝統的な技術の活用など様々な情報が得られました。また、築堤の構造は各所で異なっていることが明らかとなり、盛土の種類や土を積み上げる方向の差異などから、当時の工区境と思われる箇所もいくつか発見されています。

これらは高輪築堤跡の設計図に代わる貴重な情報であり、海上に堤を築くための先人の知恵と工夫が感じられる第一級の資料として、今後の保存活用に役立てられます。なお、調査・分析はまだ途中段階であり、今後の発掘調査の完了後に報告書が刊行されます。

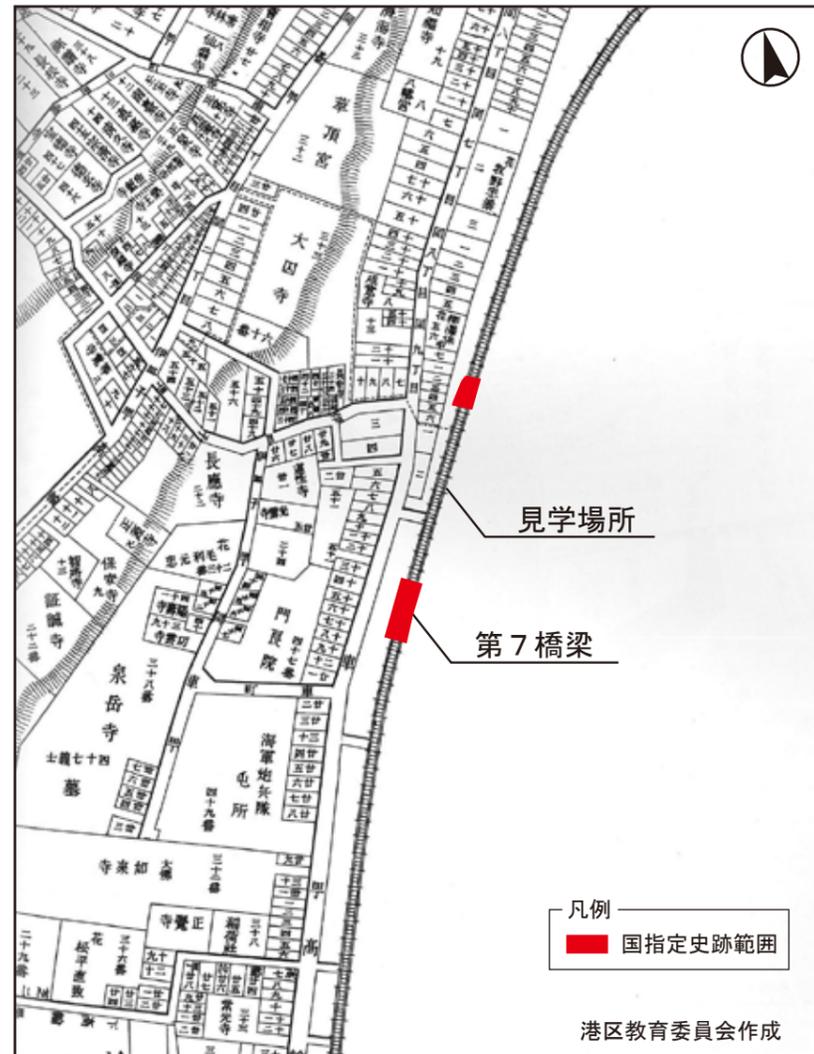


図3 明治9年頃の高輪築堤と周辺部の様子
 (『増補近代沿革図集』掲載の明治東京全図を加工)

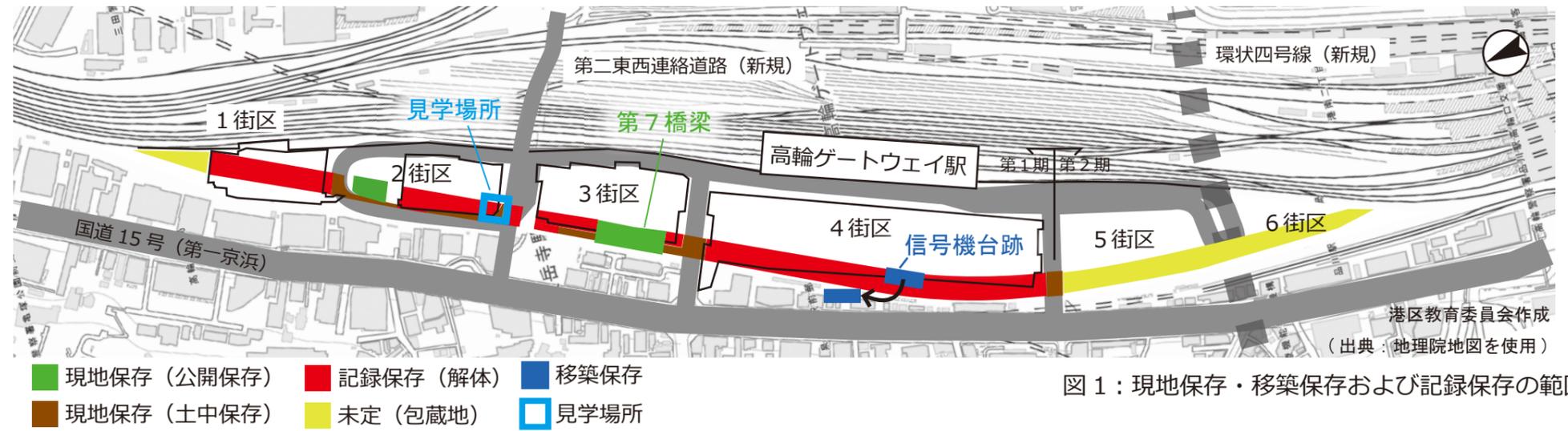


図1: 現地保存・移築保存および記録保存の範囲

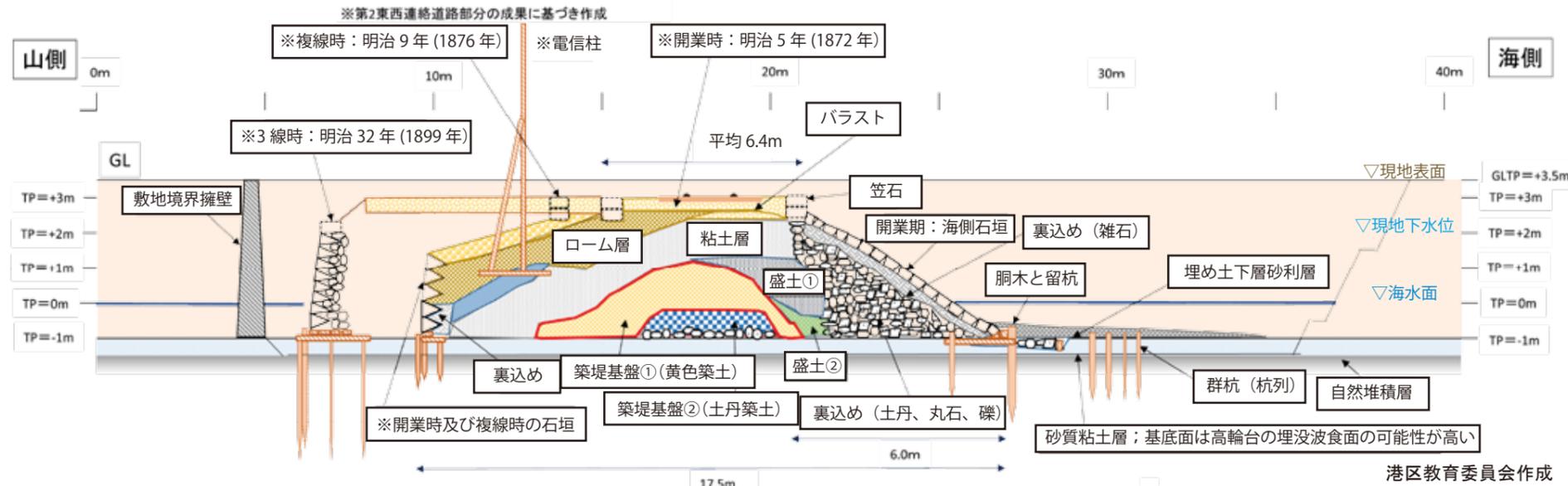


図2: 築堤部の内部構造 (想定)

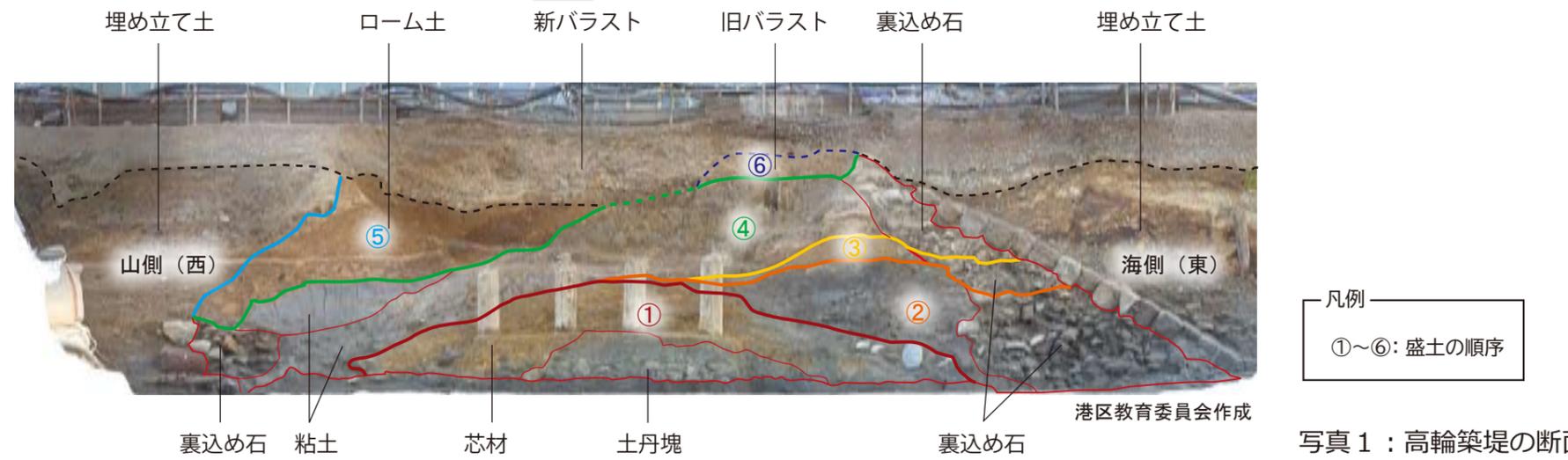


写真1: 高輪築堤の断面

用語解説

- 布積み: 石材の目地が各段で横に通る積み方 (開業期の石垣)
- 谷積み: 石を斜めに積む方法 (3線化の石垣)
- 土丹: 硬質粘土を含む非常に硬い土 (築堤の芯)
- バラスト: 線路上に敷かれる砂利
- 根石: 石垣の最下段に積まれる基礎石
- 天端石: 石垣の最上段に積まれる石
- 笠石: ここでは天端石の上に乗る加工石のこと
- 裏込石: 石垣の裏に詰められる小石
- 胴木: 根石を支える横木